



「2011 スキー鳥取」創立80周年記念号 発刊に寄せて

鳥取県スキー連盟

会長 内田 博長

鳥取県スキー連盟は創立期の連盟規約第2条で「本連盟は鳥取県のスキー界の統一連絡並びにスキー界の発展を計るを以て目的とす。」として、昭和5年12月に多数の先駆者の熱意により設立されてから80周年を迎えました。

現在では冬期の社会スポーツとして、スノースポーツの普及発展を以て社会の健全で明朗な育成に貢献する団体として各階各層のご支援をいただいております。設立当時のスキー界は、現在の豊かな社会と異なり厳しい経済状態で、スキー自体が高価で個人での購入者は少なく学校、軍隊、営林署、警察等の管を主体として普及発展を図られてきました。その後の高度経済成長期に入り、スキー界は急速に発展して、一時期国内のスキー人口は1200万人を数えました。県内でも民間、自治体で経営されるスキー場が設立され冬期の観光面での経済振興に寄与して来たと思われま

す。その中で創立以来の大事業でありました第27回国民体育大会冬季大会スキー競技会を昭和47年に開催し、暖冬異変で雪不足にもかかわらず役職員等の昼夜を問わない献身的な働きで立派に成功させ、そして平成5年に鳥取県では2回目となる第48回国民体育大会冬季大会スキー競技会を開催致しました。この大会は開会式でのハプニングもありましたが、その夜から南からの強風で大量の雪が解け、看板が倒壊し最も重要な大会ユースにも被害が続出。今回も役員及び係員が総出で復旧に努め無事に大会を終了することが出来ました。私も両大会に役員として参加して、感慨深い思い出であります。

そうした中で、鳥取県スキー連盟所属の多数のアスリートが国民体育大会、全日本選手権大会を始め数多くの大会で活躍し最高の成績を上げる事が出来ました。この成果は本人の努力は元より、地域・スキー場・自治体・体育協会等々関係機関関係方々のご支援の賜物であると感謝致しております。

近年ではスポーツの多様化そして経済不況少子化とスキー界を取り巻く環境は決して良い状況にはありませんが、先人の努力で設立されました本連盟を現役員会員で現状を打破し、新しい目標に向かって全力を傾注し組織の拡大とスキー界の発展そして選手の育成に努め、皆様方のご期待に応えなければならないと思っております。

これまでご支援を戴きました行政企業等各方面の皆様におかれましては、今後共に鳥取県スキー連盟の活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。